

きまりは何のために

「これが衆議院議場なのか。」

健一は、テレビで見た衆議院議場を目の当たりにして圧倒されました。

「ここで、たくさんの法律案が決定されます。」

案内の人が説明してくれました。

(ここで国の法律を決める。ぼくらは校庭遊びのきまりも守れないのに……。)

発端は、明がゲームの販売日に、校庭遊びのきまりを破ったことでした。高学年が遊べる時間は、低学年、中学年の後だったのに、勝手に低・中学年の時間帯に遊んで、ボールを出しっ放しにして帰ったのです。翌朝、ゲームを買えなかった浩が、明に不満を言いました。

「時間を守ったほうがゲームを買えないなんて、おかしいよ。」

「だいたい自分たちで決めたままりを破るなんて、だめだよ。」

と健一も明をせめました。すると、鉄男が間に入って冷やかすように言いました。

「はい、はい、浩君や健一君の言う通り。でもさ、自分の遊ぶ権利は主張しなくちゃね。」

（それって、権利って言うのかなあ。）

健一が迷^{まよ}っていると、すかさず、

「つまりは、違反^{いはん}しても、買ったもの勝ちなんだよ。」

と、明が言うのでした。

悪いことに、次の日には、ほかのクラスからも勝手な行動をする人が出ました。

「今日は習い事があるから低・中学年の時間に遊ぼう。」

とか、

「楽しいなテレビ番組に合わせて時間を決めよう。」

などの理由できまりを破るようになったのです。

そして、とうとう鉄男のけたたボールが一年生に当たってしまい、放課後の校庭遊びは休止になってしまったのでした。

この翌週に、社会科見学で国会議事堂を見学することになったのです。

「さて、ここが参議院議場になります。わが国の国会では、大切な取りきめをより慎重^{しんちょう}に行うことができるように、先ほどの衆議院と参議院の二つの議院から成り立っています。」

案内の人の説明を聞きながら、健一たちは改めてきまりについて考えてみました。

(国会議員の人たちは、大事なことを衆議院、参議院の二カ所で順番によく話し合っていて決めている。

議員の人たちは、様々なことを調べ、考えて、国のきまりを作っているんだ。)

すると、鉄男が言いました。

「校庭遊びのきまりだって、たしか学級で話し合っていて、代表委員会に提出して決まったんだよね。」

「そうだよ、ぼくは代表委員として校庭遊びのことを提案した

んだ。」

健一が答えます。浩も続いて、

「スケールは違うけど、自分たちも学校全体のことを考えてき

まりを作ったんだよね。」

と言いました。

「そもそも全学年で校庭を使うにはせまくて危ないので、高学

年が後の時間帯にしたんだ。みんなが安全で楽しく過ごせる

ことを考えて……。」

健一は、このきまりを提案したきっかけをふり返ります。



(ぼくたちは何か大切なことを忘れていたのではないか。)

健一の心に疑問がわいてきました。

しばらくして、鉄男がつぶやきました。

「遊びたいときに遊んで得した気分だったけど、結局は一年生が安全に遊ぶ権利をうばってしまった。それまでだまってじっと聞いていた明も、

「時間を守るという義務を果たさなかったこと、今は後悔している。」と、つぶやきました。

「きまりを軽く考えて、自分だけはいいかななんて……勝手だった。」

鉄男はしきりに反省しています。

「きまりって何のためにあるのかな。」

健一はもう一度みんなできまりについて話し合ってみようと思いました。

国会議事堂見学から帰った翌日、学級でもう一度「きまりは何のためにあるのか」を話し合うことになりました。